

次期計画の基本目標と内容（案）

基本目標	内 容
I 若い世代を対象とした食育	① 若者の朝食欠食への取組。
	② 親世代への食育の関心を高める。
	③ 児童生徒が、バランスの良い食事を準備できるスキルを身に付けるられるような支援。
	④-(1) 家族形態等に沿った多種多様な食育の働きかけ。 ④-(2) 「共食」の大切さを伝える。
II 世界一の健康長寿を目指す食育	⑤ 健康な食事（減塩・野菜摂取・適正エネルギー等）の普及・啓発。
	⑥ 働き盛り世代の健康な食生活への支援や働きかけ。
	⑦ 高齢期の低栄養を予防する取組。
	⑧ よく噛むことへの意識付けと高齢者の摂食嚥下機能の維持への普及・啓発。
III 食の循環と地域の食を意識した食育	⑨ 食文化・郷土食等の継承、地産地消。
	⑩ 「食べ物を残すことをもったいないことだ」と思えるような取組。
	⑪ 食品ロス等の排出量削減に向けた取組の推進。
	⑫-(1) 食品に関して信頼できる情報に基づき、適切な判断を行い、健全な食生活を行う。 ⑫-(2) 県内に流通する食品の安全性の確保と関係者の相互理解を深める。
IV 信州の食を育む環境づくり	⑬ 多くの県民が食育の活動に興味を持ち、参加するような取組。
	⑭ 市町村計画の策定支援。
	⑮ 食育に関わる関係者が連携し、食育の取組を広げる。

<いただいている意見から>

- ・②と⑮の区分がわかりにくい。
- ・⑩、⑪、⑫の区分がわかりにくい。
- ・「若い世代」という言葉は、抽象的な感じがするのでターゲットをもう少し絞った方がよいのではないか。(例、乳幼児期、学齢期(給食のある小中学校、給食がない高校・大学で取組をわけると)

<その他検討事項>

- ・①朝食欠食だけでなく、食生活全体の取組
- ・③児童生徒だけでなく、幼児期からの食育
- ・④取組の方策として考えられることは何か(3世帯同居、若者の1人暮らし、高齢者の1人暮らし、核家族、夫婦2人暮らしなど)
- ・共食としての取組の方策はあるか(子ども食堂や園児や児童・生徒と高齢者が交流する場)